

San-iku 通信

社会福祉法人賛育会の広報誌「さんいくつうしん」

TAKE FREE



REPORT

Vol. **18**
2018 SUMMER

特集 清風園 にこにこ清風食堂

賛育会常務理事就任・退任のごあいさつ

賛彩レシピ：アレルギーでも安心！「ハンバーグ」



社会福祉法人
賛育会



イベント
セタ★

特集
REPORT

にここ清風食堂

特別養護老人ホームの清風園。
そんな私たちが子どもたちへ食堂を始めました。

清風園（東京都町田市）

1964年開設。50年以上の歴史をもつ、町田市にある清風園はこの地域のシンボリック的存在を担ってきました。そんな高齢者施設の清風園が近年、子どもたちを対象とした新たな活動を行っています。

今回はにここ清風食堂生みの親である吉田施設長とボランティアの皆さんにお話を伺いました。

「清風園は50年以上も高齢者のことをやっているけれど、地域で困っているのは高齢者だけでないよ。今の子どもたちには、『ここに居て良いんだよ』という場所がない。そういう子供たちに何かしてあげられない?」と、地域の民生委員の方からお話があったのは2015年の年末のことでした。心を揺さぶられた吉田施設長はとにかく始めてみようと思ったそうです。「地域からの頼まれごとは全て受けなさい」という前施設長からの助言や、メディアで子どもの孤食が

取り上げられていたことなどもあり、2016年6月16日ににここ清風食堂を始動。お話をいただいてから、わずか半年でのスピードオープンでした。

一般的には「こども食堂＝貧困・孤食への対応」というイメージが強い中、にここ清風食堂は、子供たちとお年寄りが交流できる場所、安心して楽しく過ごせて、親御さんにも安心してもらえる場所として、学生ボランティアの意見なども取り入れながら日々試行錯誤を重ね開催しています。

こども食堂では、思いっきり遊び、みんなで食事をし、宿題や勉強を見てもらい、そしてお菓子をもらって帰ります。夏休みには飯盒炊飯やスイカ割りなどデイ・キャンプ風のイベントが、それ以外の季節でもハロウィンやクリスマスなど、季節に合ったイベントが開催されています。それは単なる「お楽しみ」というだけではありません。「そういう機会があれば、学校



でみんなが楽しかった体験を話しているときに、この子たちだって話に加わっていけるのよ」と吉田施設長は言います。眼を輝かせて「僕だってねえ」と自分の体験を友だちの前で話す子どもの姿を思うからこそこのイベントです。

学校で友達が少なく、なかなか馴染めなかった子が、いつの間にか自主的に人の中に入っていくことができるようになっていたケースもあるとボランティアのキャプテン、森さんは語ります。一人っ子が多い現代の子どもたち。違う学年の子と一緒に遊ぶことで上下関係を学び、年少者の服を着せてあげるといった一面や、年長者が年少者に順番を教え、それをさらに次の代に引き継いでいく。子どもたち同士の交流の中で自然に生れたルールがこのこども食堂にはあります。そんな我が子の成長を喜ぶ親御さんからの感謝のお言葉をいただくこともあるそうです。それは清風園の職員だけではなく、仕込みをお手伝いしていただいている調理ボランティアの「元タ母が施設にいたので何かお手伝い出来たらと思って」という想いや「常に楽しく、皆を巻き込む遊びの提案をしたい」といった学生ボランティアの想いなど様々な想いがあるからこそこの言葉なのではないでしょうか。

学校の先生も学童員もいないけれど、食事が出て、情操教育があって、「何かあったら飛び込んでおいで!」と言えるのは、常に開いていて、常に誰かがいる施設だからできること。

中には一旦こども食堂を「卒業」していった子が数か月後にまた戻ってきたこともあったそうです。“どんな時でも気軽にいける居場所＝清風園”を施設一丸となって取り組んでいることが感じられました。

今後はこども食堂を卒業した中学生たちを、受け入れていくことが何よりの課題と話す吉田施設長。「スタート時は子どもたちの居場所をどうにかしようということばかりを考えていたのですが、2年経ち、今は担当している職員たちも仕事としてだけ考えるのではなく、自己実現や人間として成長をしていける場になりつつあります。この活動を通して、人をひとつの側面からだけ見るのではなく、全体で見ることでできる職員に成長してほしいと願っています。そして、この食堂に来てくれている子供たちが大きくなったとき、この体験を通して介護員になる子が出てきてくれたら嬉しいです」と素敵な夢を語ってくださいました。

にこにこ清風食堂(清風園)

開催日程: 毎月第1・第3木曜日 夕方5時～夜7時

対象: 小学生～中学生(兄弟または保護者同伴の場合未就学児も可)

料金: 100円 お問い合わせ: 042-735-3000(シマダまで)

開催場所: 清風園 東京都町田市金井7-17-13

<https://www.san-ikukai.or.jp/seifu-en/nikoniko-seifu-syokudo/>



池田美紀さん 豊野清風園：介護課

長野にもやっと春が訪れた4月20日。千曲川の畔には、桜、菜の花、花桃などが咲き乱れ、わずかに雪を残す黒姫や妙高の山々が遠く霞んでいました。

溢れんばかりの春の日、豊野清風園（長野県長野市豊野町）で介護主任を務める池田美紀さんが、祝福を受けて施設で結婚式を挙げました。池田さんの“ばあやん”（池田さんはお婆さまの事をそう呼びます）は、もう長く豊野清風園に入所しておられ、他所で結婚式があっても孫娘の花嫁姿を見るのが困難な状況。そんなばあやんに、結婚した自分の姿を見てもらいたい…と、施設での結婚式になりました。更には、ご利用者の皆さんや、職場の仲間たちにも立ち会ってもらって、施設の皆が証人となる人前結婚式をしたいという思いもありました。

池田さんは、介護業務だけでなく、この町の高齢者やご家族のためなら、どんな事にも笑顔で頑張る素敵な女性です。中でも豊野清風園が行っているパープルカフェには情熱を傾けています。高齢者のご家族が、いつか来るその時にむかって、どのようにご本人の望む時間を共有していけば良いかを考える集いです。ご本人が輝いていた

時代を思い、今、この時を家族皆で大切に生き通す。「どのように最期を迎えるか」の答えは、「今をどのように生きるか」の向こう側にこそある。そんなパープルカフェに積極的に取り組む池田さんです。

ばあやんは、もう外からの刺激にあまり反応できませんが、花束を渡す時、素晴らしい出来事が起こりました。それまで目を閉じていたばあやんが、池田さんが近づいたその時、はっきりと目を開け、とても嬉しそうな表情で、「あ〜、あ〜」と声を発したのです。ばあやんは全部わかっていて、この結婚を祝福してくれているんだ！

この時、池田さんの肩越しに撮ったばあやんの写真の中に、見開いた瞳に新郎新婦がハッキリと映っている1枚がありました。ばあやんは、確かに孫娘の姿を見届けていたのです。「幸せになんないよ」という、今ではもう聞けなくなったばあやんの声が聞こえてきます。

その写真を見た池田さんから「一番近くで見ていたはずだけど、改めて見るとばあやんの気持ちを感じます。幸せになんないよというメッセージも聴こえた気がしました。幸せになります☆」というお返事をいただきました。



笑顔のリレー ～地域と賛育会：東海清風園

ボランティア 榎林美智子さん (日本いけばな芸術協会特別会員)

東海清風園：編み物クラブ 池新田、佐倉、はぎまデイサービス、よつばの家：生け花クラブ

1990年より東海清風園の編み物クラブのボランティアとして活動していただいている榎林さん。今では、3つのデイサービスセンター（池新田、佐倉、はぎま）、地域交流の場であるよつばの家で生け花クラブのボランティアも行っていておられます。ご利用者との温かいコミュニケーションを大切にしてくださる素敵な先生をご紹介します。

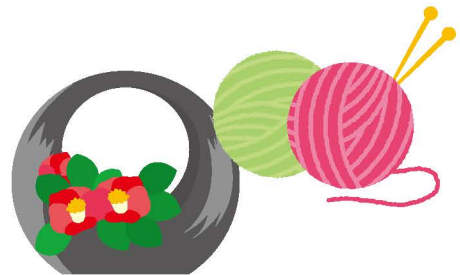
私は大好きな生け花・編み物を通して賛育会さんと関わり、職員の皆様に温かく接していただき早くも30年近くになります。利用者さんに少しでも喜んでいただくことができるようにと、毎回テーマを決めて出向いています。

生け花クラブでは、花材を通して、古き良き時代を思い出して会話が弾んだり、楽しそうな笑顔、満足げな笑顔を見た時は私も一緒に幸せを感じます。

編み物クラブでは一針一針大変な作業で時間もかかりますが、根気よく励ましの言葉をかけながら続けています。仕上がった時の達成感と喜びはひとしおです。



編み物クラブ活動中の榎林さん



夏

賛彩レシピ

アレルギーでも安心！「ハンバーグ」

卵・牛乳・小麦アレルギーのお子様も安心して食べられます！

つなぎにすりおろしたじゃがいもを使うことで、仕上がりがふんわりジューシーに。

レシピ制作：さんいく保育園有明管理栄養士 重田奈々子

材料：（大人2人分＋子ども1人分）

<ハンバーグ>

- ・合挽き肉 200g
- ・たまねぎ 1/4個
- ・じゃがいも 小1個
- ・油① 小さじ1
- ・塩 小さじ1/4
- ・こしょう 少々
- ・油② 大さじ1

<ソース>

- ・トマトケチャップ 大さじ3
- ・中濃ソース 大さじ3

作り方

- ①たまねぎは皮をむいてみじん切りにし、油①をひいたフライパンで炒め、粗熱をとっておく。じゃがいもは皮をむいてすりおろす。
- ②合挽き肉は粘りが出るまで手でよく混ぜ、①、塩、こしょうを加えて混ぜる。
- ③フライパンに油②をひき、②の形を整えながらじっくり焼く。焼きあがったらお皿に盛つける。
- ④ソースをつくる。ハンバーグを焼いたフライパンにソースを入れ弱火で加熱し、ふつふつとしてから軽く煮詰め、ハンバーグの上にかける。
（※ソースは肉汁と一緒に火を通して酸味を飛ばすことで、まろやかになります）



賛育会常務理事就任・退任のごあいさつ

これまで賛育会の常務理事を務めてまいりました西原良信が2018年6月末をもって退任、7月1日より中村基信が新常務理事として就任いたしました。



就任のごあいさつ

「つながろう、ひとつに。ひろげよう、笑顔を。」

(賛育会創立100周年記念フレーズ)

社会福祉法人賛育会 常務理事 中村基信

7月から常務理事に就任いたしました中村基信です。創立100周年の今年、これまでの歩みに感謝するとともに、これからも皆さまと共に祈りつつ、神と人に仕えたいと思います。

「つながろう、ひとつに。ひろげよう、笑顔を。」は賛育会創立100周年記念事業で職員が皆で決めた記念フレーズです。職員から案を募り、皆の投票で決め、記念式典や施設行事で掲示し、職員証にもシールを貼っています。賛育会は現在、東京、長野、静岡で医療・高齢者福祉・保育を中心に16施設61事業を運営しています。職員は約2000名。賛育会病院では毎年1000人以上の赤ちゃんが生まれ、賛育会の全サービス利用者延人数は年間約90万人です。残念ながら職員同士が皆知り合いで、全ての活動や地域のことを知っていると言われると困ります。そして賛育会を支えてくださるボランティアや地域の皆さまにも全ての活動をお知らせできていないというのが現状です。それでは職員やボランティアの皆さまを賛育会につなげているものは何でしょうか。それは、隣人愛の実践、つまり目の前にいる人を大切にしたいという想いではないでしょうか。「つながろう、ひとつに」というフレーズは自ら希望して皆とつながるという意志が込められています。「ひろげよう、笑顔を」には、皆と共に喜びたいという想いが込められています。やはり賛育会は隣人愛を実践する場なのだと思います。奇しくも今年の賛育会の年間聖句は「父よ、それは、あなたがわたしのうち

におられ、わたしがあなたのうちにいるように、みんなの者が一つとなるためであります」(ヨハネによる福音書17章21節)です。国の内外を問わずあちらこちらで自分ファーストが叫ばれる時代です。しかし、賛育会はこの時代だからこそ、国籍や宗教、性別や年齢を超えて、皆とつながりたいのです。一人ひとりを大切にしたいのです。

賛育会は今、サービスの向上、病院の移転新築、サービス提供職員の確保等様々な課題を抱えています。どれも大きな課題です。実はこれまでも賛育会にはたくさんの課題がありました。しかし、その度に多くの方々に支えていただけて乗り越えてきました。課題の中身はその時々で変わっていても、隣人愛の実践、人を大切にしたいという人々の想いは変わらなかったのだと思います。101年目の賛育会も「つながろう、ひとつに。ひろげよう、笑顔を。」というフレーズを実践しつつ歩みたいと思います。これまで同様、皆さまのご指導ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

つながろう、ひとつに。
ひろげよう、笑顔を。

100th
ANNIVERSARY
地域とともに100周年



退任のごあいさつ

「感謝」

西原 良信



賛育会での9年と3カ月、その内7年と3カ月、常務理事の役割と責任を与えられました。職責を十分全うできたとは思えませんが、どのような時もお支えいただき、ご指導、励まし続けていただいた皆様に心より感謝申し上げます。

社会福祉法人として制度や枠組みにがんじがらめに捕らわれているように見える賛育会ではありますが、実は、「地域に仕える」という基本、分かち合う「Share」という精神、支援を必要としている人の「傍らに寄り添う」姿勢という、いわば創立以来の「根本」を今も尚しっかり持ち続けている組織であります。そういう意味で、可能性とポテンシャルを感じる組織です。2016年の熊本震災支援や地域活動の活性化、2017年の100周年記念式典、或いは賛育会病院移転用地決定にいたるプロセスを通じて、また現場におけるケアの向上やリスクマネジメントの取り組みの中で、こうしたことを実感できるシーンがいくつもありました。

このような組織で働くことができたことは、本当に幸せでした。賛育会の中で常務理事という役割を果たすことをお許しいただいた方々、支えていただいた多くの方々がいたからこそ、今の私があります。

東京大学学生YMCA(キリスト教青年会)の有志によって設立された賛育会であります。もう一度YMCAの“A”つまり“Association”のあり方から学びたいと思います。

かつて隅谷三喜男先生は、“Association”を「ゆるやかな同志的結合」と言われました。与えられた地域の中で私たちが働くとき、志(こころざし)や願いを同じくする者同士が、様々な違いを乗り越えて、お互いを認め合い、場合によっては許しあって、ゆるやかに繋がりながら、共に協力して、地域の課題やそこに暮らす人々を支えたいと願います。そのようなあり方を、組織の中でも、地域の中でも目指すことを続けてください。

もうひとつだけ言います。賛育会創立時、木下正中49歳、吉野作造40歳、藤田逸男32歳、片山哲31歳、河田茂28歳、石川正臣27歳。もちろん、社会・時代も違う、青年のもつ社会的影響力・パワーも違います。けれども、より若い人々が活躍できる組織に変わる時、賛育会はさらに力強い組織になれるのだと思います。

歴史を振り返れば、神様が賛育会に与えた試練と救いの道は実に巧妙で、手に汗握るストーリーの連続でありました。別の見方をすれば、多くの関係者の絞り出すような努力と涙、心が張り裂けんばかりの祈りを神様が「よし」とされたのかもしれませんが。

今までがそうであったように、神様はこれからも賛育会に多大な試練を与えるでしょう。しかし、同時に、神がこの働きを「是」として、試練を乗り越える道や必要な出会いを用意くださると確信しております。賛育会のために、そこで関わる人々のために祈り続けます。

本当に、ありがとうございました。

人間ドックは 自分への投資です！

特定検診はメタボリック症候群、職場での健診は成人病に照準を合わせた検査です。これに対して、人間ドックは「生活習慣病」から「がん」に至るまで、幅広く調べることが出来ます。(※オプション選択で追加できます。)気になる項目をご自身で選択できるのは「人間ドック」の良いところです。お勤めであれば、会社が一部補助している場合があります。

ご自身の健康状態を知ること、病気を未然に予防し、「QOL(クオリティ オブ ライフ)生活の質」を保てます。ぜひ1年に1回、ご自身の投資と考えてみてはいかがでしょうか？

◆開院100周年記念◆人間ドック+頭部MRI/MRA

通常の間ドックにオプションを追加した、お得なプランを実施しています。※Web申し込み限定



詳しくはWebへ→
健康管理クリニック
のご案内をご覧ください。



INFORMATION

賛育会 主要人事

《役員人事》

2018年6月23日付

賛育会監事	島田 茂	退任
賛育会理事	山田 公平	退任
高本 眞一	賛育会理事とする	
島田 茂	賛育会理事とする	
山田 公平	賛育会監事とする	

6月30日付

賛育会常務理事 西原 良信 退任

7月1日付

賛育会理事 中村 基信 賛育会常務理事とする

8月1日付

賛育会理事 高本 眞一 賛育会理事 兼 賛育会医療事業特別顧問とする

《管理職人事》

2018年6月1日付

法人事務局総務部長 兼 法人100周年記念事業担当部長
山本 雅美

法人事務局総務部長 兼 法人100周年記念事業担当部長
兼 法人事務局法務部長とする

萩原 和富 たちばなホーム管理部長として採用(嘱託)

6月30日付

法人事務局長 西原 良信 依願退職

7月1日付

法人事務局人事部長 中村 基信

法人事務局長 兼 法人事務局人事部長とする



社会福祉法人賛育会の創立100周年を記念して、賛育会病院建て替えのためのチャリティーコンサートを10月12日(金)、例年と同じ「すみだトリフォニーホール」で開催いたします。今年は、小林研一郎さん指揮による東京フィルハーモニー交響楽団、大谷康子さんのヴァイオリン、松居直美さんのパイプオルガンの演奏など、多彩な演奏をお楽しみいただけます。また、無料託児サービスもご用意します。詳細は賛育会後援会Webサイトまたは、チラシをご覧ください。ぜひみなさまのご来場をお待ちしております。

http://319kouenkai.jp/c_concert/

編集後記

年々厳しさを増す猛暑、7月には豪雨による大きな災害がありました。失われた命と今も困難の中におられる方の平安を祈るばかりです。自然に対する人間の行いに、地球が怒っているかのようです。その怒りを鎮めるために、今、私にもできる小さな事をみんなで重ねあう事が大切なんだと感じます。

San-iku 通信

社会福祉法人賛育会の広報誌「さんいくつうしん」

San-iku通信 Vol.18 2018年 夏号

編集:賛育会広報委員会

発行人:中村 基信

発行所:社会福祉法人 賛育会

印刷:(有)エースプリント (20180802-7000)

社会福祉法人 賛育会

〒130-0012 東京都墨田区太平3-17-8

URL <https://www.san-ikukai.or.jp/>

お問い合わせ

TEL:03-3622-7614

賛育会100周年記念サイト

<https://www.san-ikukai.or.jp/100th/>



つながろう、ひとつに。
ひろげよう、笑顔。

100th
ANNIVERSARY
地域とともに100周年

社会福祉法人
賛育会